



みんなの水泳……日々徒然

2021年の東京2020 ～“2020+1”が動き始めた～

▶はじめに

前は、2021年になり、いよいよ2か月後に迫った東京2020パラリンピック競技大会に向けてパラ水泳界の現状やパラ水泳の競技規則についてお伝えしました。

今回は動き始めたパラ水泳界や競技規則についてちょっとした昔話を添えてお伝えしたいと思います。

▶2021年、国内外のパラ水泳競技会は…

2021年春から少し世界が動き始めました。WPSが2020年12月18日に発表した2021年のワールドシリーズのうち、下記の大会が実施されました。それぞれ発表当初から参加人数などが変更されるなど、調整が入りましたが、東京2020大会に向けて最重要課題のひとつである国際クラス分けが淡々と実施されていることは今のパラ水泳界にとって大きな成果であると思います。

シェフィールド（英国）大会は4/8～11に開催され、21か国91名が参加しました。国際クラス分けも実施されました。ルイスビル（米国）大会は4/15～17に20か国116名が参加、国際クラス分けも併せて実施されました。

リニアーノ・サビアドーロ（イタリア）大会は4/15～18の日程で、24チーム141名が参加、国際クラス分けも併せて実施されました。

ようやく国際クラス分けとワールドシリーズが実施され、東京2020パラリンピックに向けて、各国が選手の参加要件を整える歩みが一歩ずつ…というところでしょうか…。MQS/METを突破する機会としても貴重な大会となっています。

また、2021欧州オープンパラ水泳選手権大会が2021年5月16～22日にフンシャル（ポルトガルのマデイラ諸島にある）で開催されました。こちらも44か国370名の参加で大変な盛り上がりを見せたようです。表彰式ではメダルをかけた状態でセレモニー入場するなど、“新しい形”もありました。

6月にはワールドシリーズベルリン大会（ドイツ）が6/17～20に予定されています。国際クラス分けも併せて実施される予定です。

東京2020大会後になりますが、2021年12月1～10日にアジアユースパラ競技大会がバーレーン開催として予定されています。

●APC公式サイト ニュース

「アジアパラリンピック委員会が2021年バーレーンでのアジアユースパラ競技大会を発表」
<https://asianparalympic.org/news-jun172020/>



国内においては、2021年3月6～7日に第37回日本パラ水泳選手権大会が静岡県富士水泳場で開催されました。例年であれば「春季記録会」の名称で「その年の国際大会選考をするのは富士で」というのがパラ水泳の通例となっていますが、今回の富士は「日本パラ水泳選手権大会」としての実施となりました。



第37回日本パラ水泳選手権大会

また2021ジャパンパラ水泳競技大会（横浜国際プール）が（欧州オープンと同じ週である）2021年5月21～23日に開催されました。

2021年開催の東京2020パラリンピック競技大会の代表の選考戦を兼ねて、1日3セッション制で実施されています。



2021ジャパンパラ水泳競技大会

東京2020大会日程など

- ・開会式 2021年8月24日（火）
- ・パラ水泳競技 8/25（水）～9/3（金）の10日間
- ・午前セッションは予選 9:00開始
- ・午後セッションは決勝 17:00開始
- ・閉会式 9月5日（日）
- ・選手枠 620
- ・実施種目 146

〈参考〉選手枠の配分方法などは、『Tokyo 2020 Paralympic Games Qualification Regulations』に記載されています。
https://www.paralympic.org/sites/default/files/2021-04/2021_04_30%20Tokyo%20QG.pdf
（最新版は2021.4月版）



2021年開催の“Tokyo2020”について…

従来のパラリンピック大会では、競技の7～8日前に選手村がオープンし、続々と選手団が入ってくるというのが典型的なパターンでした。国によっては時差調整、気候への馴化、文化交流などを狙いに、1～4週間前から他都市で事前キャンプを実施しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、この従来のパターンに変化があります。東京2020大会では、競技の5日前に選手村入村、競技終了後48時間以内に選手村を出る、というルールが設けられました（「競技の5日前/競技の48時間」は競技ごとに定義）。

昨今の報道でも事前キャンプを経ず、直接選手村に入ることに変更するケースが出ているようです。

新型コロナウイルス感染症への対策などは『プレイブック』にまとめられ、選手団や運営側の人員などの関係者のとるべき行動などが定められています。

●東京2020公式サイト ニュース

「プレイブック（ルールブック）第3版公表 安全で安心な大会開催に向けて、ルールの強化・具体化・明確化」

<https://gtingtokyo2020.org/image/upload/production/kms17lv7qw4c9tjuiud.pdf>



IFとは？ NFとは？

水泳に限ったことではありませんが、国際、国内、それぞれにその競技を統括する組織があります。

それぞれ一般的に国際競技団体（International Federation）／国内競技団体（National Federation）と言いますが、その英語表記の頭文字を取ったIF/NFについても、頻出するので、覚えておくといいと思います。

パラ水泳のIFとNFは下記のとおりです。

IF	World Para Swimming (WPS) ※2018年以前はIPC Swimming
NF	（一社）日本パラ水泳連盟 ※2021年4月から。以前は（一社）日本身体障がい者水泳連盟 （一社）日本知的障害者水泳連盟 （一社）日本ろう者水泳協会

障がいによって分かれていること、またいわゆるオリのNFとも別組織であることは、他国と比べると珍しいことです。

パラ水泳競技規則

●VIリレー、ルールの変遷…と、おまけの昔話

VIはVision Impairmentの略で視覚障がいのことです。2000年シドニー大会では、日本チームが「男子4x100mメドレーリレー S11-13」で金メダルを獲得しました。



金メダルを獲得した日本チーム（左から杉田好士郎、河合純一、中條泰治、酒井善和）

当時は大会期間中にIPC Swimming（現在はWPS）の総会が行われ、ルールの改正などがそこの投票で決められていました。

当時のルールでは、リレーメンバーに必ずS11（全盲）選手を含む必要がありました。この「必ずS11を含む」という条件が変更されたのがこのシドニー大会中に開催された総会でした。

代表チームに帯同していた私は総会に通訳として（だったと思います…）出席しました。記憶をたどると、このルールについてのディスカッションの論点は「参加チームの増加をめざす」という点でした。

現在のVIにおけるリレーは種目名に49ポイントと記載されています。これは例えばS11選手は11ポイント、S12選手は12ポイントというようにクラスの数字をポイントに置き換え、4人のリレーメンバーの合計ポイントが49ポイントまで、としてリレーメンバー構成をする、というものです。つまり実質的には「S11は必ずしも含まなくてもよい」ということになったのです。

このルール改正について、「日本が勝ったから変更された」という説（スキージャンプなどでそういう例があった影響？）が国内でまことしやかに言われていることを幾度となく聞きましたが、その説は正しくありません。実は日本チームリレー優勝の数日前にルール改正の決定がなされていたのです。*シドニー大会で日本代表チームは金メダル9、銀メダル5、銅メダル1を獲得しました。

●IPC公式サイト シドニー大会水泳

<https://www.paralympic.org/sydney-2000/results/swimming>



IPCのウェブサイトには、様々な情報が記載されています。ここで私が紹介したこの改正のあと、VIのリレー参加国が増えたのか…等々、ぜひ探ってみてください。サイトは英語ですが、なんとなく追っかけてみるのも面白いのではないのでしょうか…英語の勉強にもいいかもしれませんね。